

ふるさと

第 14 号



こんな谷戸が近くに！

目次

第3回(平成28年度)定期総会	(1)
【特別寄稿】我がふるさと会津	(4)
無錫の歴史	(8)
神奈川県の子バ神社	(12)
【連載】隠岐流人秘帳(その5)	(15)

発行：2016年7月23日(第14号)
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：平塚 征英 さん
タイトル：こんな谷戸が近くに！
撮影月日：H. 28. 7. 8
撮影場所：生田緑地、谷間の自然
探勝路
記事：緑の中に遊歩道が整備され、
野鳥の声も聞こえます。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

第4回(平成 28 年度)定期総会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり
日 時:平成28年4月29日(水)
15時00分～18時00分
参加人数 31名、懇親会参加 24名



第1部 麻生ふるさと交流会 定期総会 (15:00～16:00) 司会 辻村副会長

1. 開会の辞……松本会長の挨拶 (以下、敬称略)
 - ◇ 開会の辞に先立ち、司会の辻村さんから配布資料の確認とミスプリントの訂正部分の修正のお願いがありました。
 - ◇ 地域コミュニティー支援事業サポートを頂き3年、支援事業の補助は、今年はありませんので、皆様のお知恵を拝借したい。
 - ◇ 宮本事務局長から今回の総会の出席者は31名、委任状提出者は23名で合計54名です。規約により今日の総会は成立するとの報告がありました。



2. 平成 27 年度 活動報告……松本会長・平塚委員(パワーポイント)
 - ◇ 配布資料と支援事業報告会プレゼン資料を基に説明がりました。
3. 平成 27 年度決算報告及び監査報告
 - ◇ 配布資料による決算報告…吉田会計担当
 - ◇ 白石会計監査担当から、帳簿、その他書類が的確に処理されています。との報告。
 - ◇ 質疑応答の時間が設けられ、議事は拍手をもって承認された。
4. 議案:会則の改定…年会費 500 円を 1,000 円に改定したい。
 - ◇ 宮本事務局長から改定理由の説明があり、議事は拍手をもって承認された。
5. 平成 28 年度活動計画…宮本事務局長
 - ◇ 活動は 7 月、9 月、11 月、2 月の 4 回くらい行いたい。
6. 平成 28 年度予算計画……吉田会計担当



会計・監査報告



活動計画

7. 今後の予定……宮本事務局長

- ◇ 今年度のイベントの案など意見を頂きたい。既に発表のふるさと会にも、第2段としてお願いしたい。バス旅行などの企画も必要だが、費用の問題もあり、今後の検討課題である。
- ◇ 新年度の役員、新役員には女性の運営委員も増やし、女性の立場からのイベントのアイデアも加味出来るのではと言う事で原信子さんと脇田允夫さんが選ばれました。
- ◇ 名簿の中でアドレスが違くと岡部さんから指摘があり、修正されました。

8. 閉会の辞……辻村副会長

- ## 9. 会歌「ふるさと」を出席者全員にて合唱



第2部 懇親会 (17:10~18:30)

1. 辻村副会長の音頭で乾杯。
2. 宮本事務局長から、和久井さんが退会。次回の交流会は7月23日。
3. 新しく運営委員になった原さんの挨拶。脇田さんから運営委員として、企画等で貢献したい。
4. 宮本さんから、伊勢志摩の旅のエピソードなどをご披露。
5. 茂木さんから、NHK「大河ドラマ真田丸」は、3年ほど前友人から頼まれ「信州上田の里を大河ドラマの舞台に！」の運動を頼まれた。ふるさと交流会の方々にも署名を依頼し、無事取りあげられ感謝の挨拶がこの場を借りてありました。
6. 今回の締めは高橋さんを突然指名し、日本各地の面白い宴会の締め等をダジャレを交えて面白く締めて頂きました。

今回も多くの方々から有難い差し入れを沢山頂きました。有難うございました。

日本酒(久保田、大七、菊盛、宗玄、松竹梅)、

泡盛・琉球王朝…大井・宮本・澤田・鈴木・松本(良)・與那覇さん

料理(つまみ・筍煮物2種・ちらし寿司・筍ごはん)…宮本・白石・平塚・日下部・五十嵐さん

(記録漏れがありましたら、ご容赦のほどを)





★撮影写真の保存ミス(約80枚行方不明)のため、写真はこれだけです。

配布資料:麻生ふるさと交流会 第4回(平成28年度)定期総会 次第

日 時:平成28年4月29日(金・祝) 15:00~18:00

場 所:市民交流館 やまゆり

1. 第4回(平成27年度)定期総会 15:00~16:00

- (1)開会の辞…辻村副会長
- (2)議長挨拶…松本会長(質問は最後にまとめて)
- (3)平成27年度 活動報告…松本会長、平塚(パワーポイント使用)
- (4)平成27年度 決算報告及び監査報告…吉田・白石
- (5)新年度運営委員の選出
- (6)議案:会則の改訂:年会費500円を1,000円に改定したい。
 第5条(入会)……入会金500円及び年会費500円を添えて……
 ⇒第5条(入会)……入会金500円及び年会費1,000円を添えて…
- (7)平成28年度 活動計画…松本会長・宮本
- (8)平成28年度 予算計画…吉田
- (9)質疑応答…松本会長
- (10)閉会の辞…辻村副会長
- (11)会歌・ふるさと合唱

2. 懇 親 会 16:30~18:00 (参加費:1,000円)

- ・乾杯
- ・新旧運営委員の挨拶
- ・懇親の時間

【特別寄稿】 我がふるさと会津

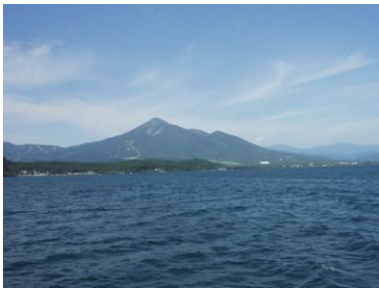
株式会社カジノヤ代表取締役 梶 俊 夫

血につながるふるさと……、
心につながるふるさと……、
言葉につながるふるさと……。



詩人は“ふるさと”をこのように歌っている。ふるさとは精神の揺籃であり、心のオアシスである。私のふるさと会津といえば、多くの方が磐梯山、鶴ヶ城、白虎隊、野口英世などを想起されることだろう。野口英世は千円札の顔になっている。

唄で知られた会津磐梯山は、何度も噴火して山体が崩壊し、明治 21(1888)年の大噴火以後、今の姿になった。



会津の白虎隊……戊辰戦争を戦った会津藩士は、年齢別に四神、すなわち玄武(50 歳以上)、青竜(36～49 歳)、朱雀(18～35 歳)、白虎(16.17 歳)の四隊に編成された。飯盛山で集団自決したのは白虎隊の士中二番隊の 16 名だった。のちに 19 名とされる。

白虎隊は他の部隊と比べて、それほど活躍した部隊ではなかったが、年齢からしても無理からぬことだった。しかし、士道を貫き、主君のためには死をも恐れぬ潔さと、少年の汚れなき純真さが強調されて人々の感傷を誘う。

明治維新については、さまざまな評価がなされている。結局は薩長土による政治的陰謀であり、一握りの野望家によって徳川幕府転覆の図面が描かれ、西国大藩と反幕府の公卿とが結託して幕府を廃滅させた。権力交代劇、クーデターが明治維新であり、それを背後から操ったのが世界の金融を牛耳るロスチャイルドという闇の勢力だった……現在、こうした評価が固まりつつある。

歴史の記録は常に勝者によって残される。天下を支配する権力の座におさまった者たちは、自分たちにとって都合の悪い歴史は無視し葬り去ってきた。そうした改竄の記録が、洋の東西を問わず今に歴史として伝えられている。ヒストリー(歴史)とはヒズストーリー、すなわち彼(権力者)らのストーリー(物語)なのだ。

会津藩主・松平容保(かたもり 1835-1893)は、世界的、国際的な視野に欠け、古き伝統的思考から脱却できず、情報戦において決定的な遅れを取ったために壊滅的敗北を喫したのだという人がいる。しかしその敗北は果たして恥ずべきことであっただろうか。

あくまでも己が信ずる道を曲げず、志忠に殉じた容保の生き方と、大軍を残したまままで大阪城から敵前逃亡した徳川慶喜(よしのぶ 1837-1913)の生きざまを比べてみるがよい。座して敗北を待つよ

りも、敢然と戦いを挑んで敗れた容保の姿勢には、藩祖・保科正之(ほしなまさゆき 1611-1672)が書き残した十五ヶ条の家訓(かきん)が生きている。家訓にはリーダーたる者の心掛けが説かれている。会津には六歳から九歳までの藩士の子供たちに対して「ならぬことはならぬものです」と締めくられた7ヶ条からなる「什の掟(じゅうのおきて)」があった。これが会津藩士の揺るがぬ義への信念と、武士として、人として間違っていることはしてはいけないという会津魂を育てた。



松平容保



徳川慶喜



保科正之

組織はトップで100%決まる。長の覚悟、長の信念、長の情熱によって組織の盛衰が決まる。戊辰戦争において、大名自らが弾雨の中に馬を進めたのは、会津肥後守松平容保ただ一人であった。薩長土肥をはじめ、尾張、紀伊、越前、その他の大藩の中で前線に出た藩主は誰一人いない。新式銃砲で武装した西国兵が雪崩れ込んでくる戦況下、猛然果敢に立ち向かおうとしたトップは容保だけだった。左右から馬の轡(くつわ)をつかみ、鐙(あぶみ)に取り縋って忠臣たちが必死にとめたという。

戊辰戦争のあと、会津藩は青森県下北半島東部の斗南(となみ)地方に追いやられる。薩長政府のいやがらせであり報復処置であった。朝敵の汚名を着せられた挙句、辛苦忍従、飢餓地獄に落とされたのである。容保は最後まで生き抜いて、権力を握って墮落した明治政府顯官たちの姿を見届けて亡くなる。

私が誇りに思う郷土の偉人を二人挙げてみよう。山本覚馬(やまもとかくま 1828-1892)と松江豊寿(まつえとよひさ 1872-1956)の二人である。

山本覚馬は、明治3(1870)年から京都府顧問として、初期の京都府政を指導した。京都の近代化に取り組み、小中学校、女学校、病院、医学校などの設立に力を尽くし、大阪と北陸を結ぶ京都鉄道の敷設願書を当局に提出するなど、開明的諸政策を積極的に推進した。明治5(1872)年には日本初の「内国勸業博覧会」を開催し、日本で最初の英文の案内記を著している。

その頃、覚馬の妹・八重(1845-1932)と結婚する新島襄(にいしまじょう 1843-1890)と知り合い、新島との連名で「私学開業願」を文部省に出願。認可されてやがて同志社英学校から同志社大学へと発展していく。同志社の名は覚馬の命名といわれている。八重はNHK大河ドラマ“八重の桜”で一躍有名になった。



山本覚馬



新島襄



新島襄と八重

覚馬が京都近代化の軸に据えたのは、教育と物づくりであった。学制発布以前から小中学校を次々と創設。女紅場(にょこうば)という女子学校を設立して、女子教育にも力を入れた。女紅場で教

師や女子寮の監督を務めたのが妹の八重であった。

舎密(せいみ＝化学)局を設置してガラス、薬剤、ビールなど幅広く西洋品の国産化を進めた。養蚕場や製紙場を設け、古都・京都は日本最先端の工業都市へと変貌する。人づくり、物づくりを重んじた覚馬は、薩長が牛耳る新政府に対し、近代日本の理想像を京都の地で示したのである。

新たな知識を吸収しつつ、日本が目指すべき国家像を描いた先見力。それを実現するためにあらゆる障害に立ち向かう不屈の会津魂……。山本覚馬の生きざまを思う時、わが胸中には言い知れぬ勇気が湧いてくる。

松江豊寿の名は 2006 年の映画「バルトの楽園(がくえん)」で、多くの人に知られることになった。松平健が演じたのが松江豊寿である。



松江豊寿

彼は第一次世界大戦中、徳島県鳴門市にある板東俘虜(ばんどうふりょ)収容所所長として、矚目すべき仕事を遂行した。バルトとはドイツ語で「ひげ」のことである。

松江はドイツ人の俘虜達を、祖国のために敢闘した勇士として遇した。可能な限り自由な行動を許した。彼の心の根底には“武士の情け”が流れていた。

武士の情けは西欧的な博愛やヒューマンイズムに基づく優しさとは違う。たとえ敗れても、祖国愛に燃えて、勇敢に正々堂々と戦った者に対する敬意の念が込められている。

ふるさと会津は新政府軍によって理不尽に蹂躪され、会津藩士とその家族の多くが無念の最期を遂げた。いわれなき賊軍の汚名を着せられ、維新後は故郷を追われて過酷な環境に追いやられ、筆舌に尽くしがたい苦しみを味わわされた。薩長軍の武士の情けを知らぬ仕打ちを受けたればこそ、松江の眼差しには敗者に対するいたわりと優しさがある。

捕虜の多くが元民間人であり、彼らの職業は家具職人、時計職人、楽器職人、写真家、印刷工、製本工、鍛冶屋、床屋、靴職人、仕立屋、肉屋、パン屋などさまざまであった。彼らは自らの技術を生かして製造した物品を、近隣の住民に販売して、ヨーロッパの優れた製品を伝えたのである。

板東俘虜収容所には、運動施設、酪農場、農園、ウイスキー工場などもあり、養鶏、養豚、野菜栽培から建築、設計などの技術交流が地域住民との間に生まれた。現在、日本でよく知られている「ユーハイム」「ローマイヤー」「デリカテッセン」などのドイツ料理やパン・ケーキ類は、この時にドイツ人捕虜が日本に伝えたものだ。

大正 7(1918)年 6 月 1 日、収容所で結成されたヘルマン・ハイゼン楽団が、日本で初めてベートーヴェンの交響曲第九番を演奏する。女性がいなかったため、ソプラノパートを男性用に編曲し、収容所がない楽器はオルガンでカバーするなど、苦労と工夫の末の演奏だったという。

大正 11(1922)年、会津若松市の市長に就任した松江は、白虎隊の慰霊碑を整備するなど故郷会津のために力を尽くした。昭和 31(1956)年 84 歳で永眠する。



鳴門ドイツ館



ベートーヴェン像

現在、私が代表取締役を務める(株)カジノヤは、創業者の意志を継いで半世紀、おかげさまで川崎の長寿企業として紹介され、わが社の製品である納豆は、世界に誇れる栄養食品としてますます注目を集める時代となった。

関西圏でも納豆を食す機会が増えて、昭和62(1987)年、大阪の池田市に関西営業所を開設。平成21(2009)年には関西工場を新設。納豆の製造を開始して、ここを拠点に関西、四国、北陸方面にも商品を出している。商社を通じてアメリカや東南アジアを初め、世界に販路を広げている。台湾ではどここのホテルでも、バイキングに「かじのや納豆」が出されていて、デンマークからも写真が届いた。

良質大豆の安定供給を図るために、北海道美幌とカナダで契約栽培を行い、大学の研究機関との共同研究により、新しい品種の開発を試みている。

「津久井納豆」は、幻の大豆といわれる津久井在来大豆の復活によって生まれたわが社の高級品だ。



毎年、岡上小学校の三年生 50 人ほどが、わが社を訪れ、各自がカップに大豆を入れて発酵させ、翌日持ち帰って食べている。未来有望な子供たちに、納豆文化の継承がなされていることは大変喜ばしいことだ。

本年(2016)年4月、食品の国際品評会「モンドセレクション」において、弊社の「北海道小粒納豆」が納豆では世界初となるモンドセレクション優秀品質金賞を受賞した。

マラソンは42キロで終わるけれど、商売は永遠のマラソンである。理想の峰を目指して、社員と共に淡々と、焦らず急がず走り続けていきたいと思っている。会津魂を胸に燃やして。

公式ホームページ <http://www.kajinoya.co.jp>

本社・工場 〒215-0027 神奈川県川崎市麻生区岡上 488-1

TEL.044-988-4577 FAX.044-988-4923

町田センター 〒195-0064 東京都町田市小野路町湯船 2460-1

TEL.042-737-4333 FAX.042-737-4334

関西営業所 〒666-0024 兵庫県川西市久代1丁目 12-16

TEL.072-756-7885(代) FAX.072-756-7888

無錫の歴史

大井 敏夫

前 13 号では赴任時代の無錫に就いて記しましたが、無錫の歴史は長く、我が国にも関わりがあるので、其の歴史に就いて簡単に述べさせて戴きます。

無錫は古代「呉」と言う國ですが、歴史上「呉」と言う國は二つ有りました。

一つは魏・呉・蜀の三国時代ですが、其の呉國は後漢の後で、首都は建業、今の南京です。此の呉國は魏の曹操、蜀の劉備、呉の孫権が三国鼎立した時代で、「小説・三国志演義」を楽しまれた方も多々あると思います。

詳しく言えば、五代十国時代に江南地域に「呉」と言う國が有りましたが、此の國は AD902～937 と僅か 35 年のみでした。

無錫に在った呉國は、其れより遥か以前の春秋時代です。

当時の呉國に就いては、春秋左氏伝・史記・呉越春秋に記されますが、夫々多少の違いが有ります。

春秋左氏伝は今の河南省に在った魯國の正史であり、隠公元年から哀公 14 年迄の 242 年間の年代記である魯春秋が有り、其れを孔子と孔子の死後、弟子達により編纂されたのが「春秋」、其れの解説書が「春秋左氏伝」です(孔子の死後弟子達が 2 年間を追記していますので 244 年間)。

* 春秋伝には他に春秋公羊伝、春秋穀梁伝が有ります。

春秋左氏伝は魯國の左丘明の著と言われて来ましたが、現在では著者不明とされています。

因みに魯國は周・武王の弟で武王が早く亡くなった為に、召公奭と共に其の遺児・成王を助け、周王朝の安定に多大な功績を遺した周公旦が封じられた國ですが、周公旦は都を離れる事が出来ず、子息の伯禽を赴任させていますので、魯國の初代は伯禽と言う見方も有ります。

史記は前漢の武帝時代に、太史令の職にあった司馬遷の全 526,500 字に及ぶ著作で、本記 12 巻、表 10 巻、書 8 巻、世家 30 巻、列伝 70 巻からなります。(巻と言う文字は竹簡を連ね巻いた事から発生しています)

呉越春秋は後漢の趙曄(チヨウヨウ)の著作で、呉史 5 巻、越史 5 巻からなります。

史記に依れば周の古公亶父には三人の男子が有り、長を太伯(泰伯)、次を虞仲(仲雍、或は呉仲)、末弟を季歴と言います(仲と季の間に叔が居たと思われませんが史書には出て来ません)。季歴の妻を太任、生まれた子が昌です。

或る時、太伯は古公亶父が「周は季歴の子・昌の時に栄えるであろう」と呟くのを聴き、弟の虞仲と共に荆蕃の地へ出奔したと記されます。太伯は其の地で断髮分身(髪を短くし刺青をする)し、千余家に推戴され國を開き、其の國名を句呉とし、其の都を梅里(現在の無錫市梅村)に置きます。

季歴の子・昌が後の文王、文王の子である発・武王が商(殷)を倒して周王朝を開き、一族や功臣を各地に封じます。此れが封建制度です。

* 呉の君主の爵位は子爵ですが、武王から見て大伯父である太伯に爵位最下位の子爵を与える事があるのか？又、太伯と武王とは可也の年齢差が有ります。若し太伯が長命で有ったとしても不思議ですが、史記にはそう記されています。

太伯は死して梅里に葬られますが、子が無く弟の虞仲が継ぎ、以降、季簡→叔達→周章と子の継嗣が続き、19 代目に壽夢(BC585～561)と言う偉大な君主が現れ、國名を句呉から呉に換えます。

(史記・呉太伯世家では武王が周章の時、殷を滅ぼし周章に呉を与え、周章の弟・虞仲を周の北、夏

の故地に封じたとも記されています)。

呉越春秋では、太伯が荆蕃の地で王となり、自ら句呉と称した。或る時、訊ねる人が有り、「私には子が無く後を継ぐのは呉仲である」と記されています。

古公亶父が病に伏し太伯は故郷に戻りますが、古公亶父は季歴に「太伯に國を継がせたい」と言いましたが、太伯は受けず、荆蕃に戻りました。故に太伯は三度國を譲ったと言われます(呉越春秋)。古公亶父が亡くなり子・季歴が立ち、西伯となります。西伯が死に昌が立つと、太伯を呉に封じたと記されています。

史記の記述に戻ります。

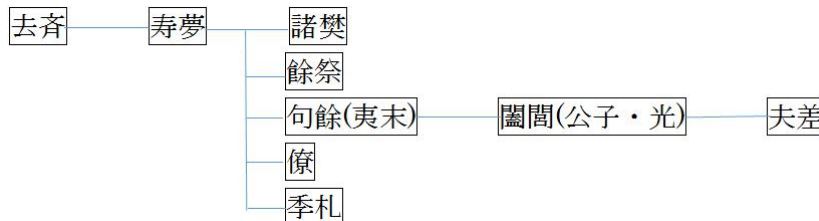
壽夢は末子の季に王位を継がせたいと思いますが、季札は兄を差し置いてと辞退し下野した為、止む無く長男の諸樊が後を継ぎます。

諸樊の時代に、梅里から故蘇(現在の蘇州)へ遷都したと言われています。諸樊は父・壽夢の意思を思い、弟達に王位を順番に継がせ、何れ「季札」が王位を継ぐ様に言い置き、餘祭→夷末と続きますが、「季札」が固辞した為、夷末の子(或は庶兄)の僚が王位に就きます。

壽夢は在位 25 年で卒した後、諸樊が 13 年、餘祭が 17 年、餘昧(夷末又は句餘とも)が 4 年と続き、壽夢から 34 年で季へ廻って来ますが、前述した様に季は下野した俣で餘昧の子・僚が継ぎます。

春秋左氏伝では、僚は季札の庶兄で、餘昧の子が闔閭、其の弟が夫槩、闔閭の子が夫差と記されています。(庶と言うのは正妃以外、身分の低い妾が生んだ年長の子を指します)

春秋左氏伝では呉國の系図は以下の様に記されています。



* 史記では闔閭は諸樊の子です。

呉國の王位継承に就いては、梅里(現在は無錫市錫山区梅村)に古呉文化村と言う場所があり、歴代の君主の像(何れも近來の作で違いは殆ど有りません)が並んでいます。(私見ですが土地の族長が代々続き、或る時、壽夢と言う優れた君主が出現したと考えます)。

季は下野した後、延陵(現在の広域無錫市の北西に位置する常州市)に封じられ、以降「延陵の季子」と呼ばれます(子は貴族の尊称)。

季子は文化面で類稀な才能が有り、呉國の文化を高める為、外交使節として諸國を訪れます。季子は周の礼学を確かめる為に魯國を訪れますが、其処で演じられた古樂の論評を的確に行い、魯國の知識人を驚嘆させたとの記述が有ります。

* 魯國は周公旦が封じられた國の為、古の礼学が残っています。

呉越春秋には、「壽夢元年、周に朝し楚に行き、魯・成公に会い諸侯の礼樂を觀ましたが、成公が悉く礼樂を論じた事に対し壽夢は恥じ、礼の大切さを知った」と記されています。

壽夢二年、楚の莊王の時、太夫巫臣が呉に行人(外交官)として行き、射と馬車を教え此れにより楚を討った事に怒り、令尹(首相)子反をして呉を伐ったと記されています(史記にも同じ記述が有ります)が、巫臣が楚を亡命したのは莊王の次の共王の時、鄭・夏姫の件で恨みを持った子反が楚に残った巫臣一族を殺し、其の財を奪った事に対する復讐で、亡命先の晋から子の狐傭を伴い射術、馬車、軍法を教えたものです。

巫臣は巫屈とも言われますが、楚・莊王が陳を滅ぼし、夏姫を連れ帰った時の箴言、或は次代・共王の時、齊に使者として行き、途中「鄭國」で使者の役を降り、夏姫を伴い晋國へ亡命した事等、興味ある逸話が有りますが、本題からは外れますので機会が有りましたら記したいと思います。

太伯(泰伯)は無錫では特別な人物で、旧市内西方の錫惠公園内に太伯を祀った泰伯廟が有り、梅村の近くには太伯墓が有ります。

2003年当時は低い丘の上に高さ、直径供2米程のコンクリート造りの墓でしたが、現在は整備され入口に門構えが出来ている様です。

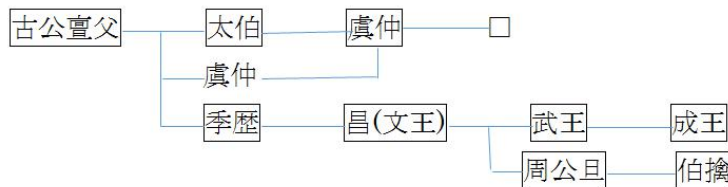


泰伯廟



太伯墓

扱、周王朝と呉國の関係と人物に就いて記しますと以下の様になります。



武王の弟は多く居り、周室の藩屏として各地に封じられました。

周王室の一族は姫姓ですが血縁の無い諸侯は別姓です。南燕に封じられた召公奭は、史記では一族の姫姓と記されていますが、西晋の AD269 魏・襄王の墓が盗掘され、其処から出土した多量の竹簡により、別姓の姁姓である事が判明しています。

古公亶父：周・武王の曾祖父、武王の父・文王が狩に出かけた折、釣りをしている老人と会い話をし、太公が望んだ人であるとして連れ帰り、師と仰いだと言う故事。此の事から釣り人を太公望と言う、然し太公とは祖父、或いは父の一般名詞と言う説も有ります。

太公望(姜呂尚)は武王が商(殷)を滅ぼす時に参戦し、後に齊(現在の山東省辺り)へ封じられています。

太伯：泰伯とも記します。古公亶父の長子で弟・虞仲(仲雍)と共に荆蕃の地へ出奔し、其の地の人々に推戴され国を興し國名を句呉とします。

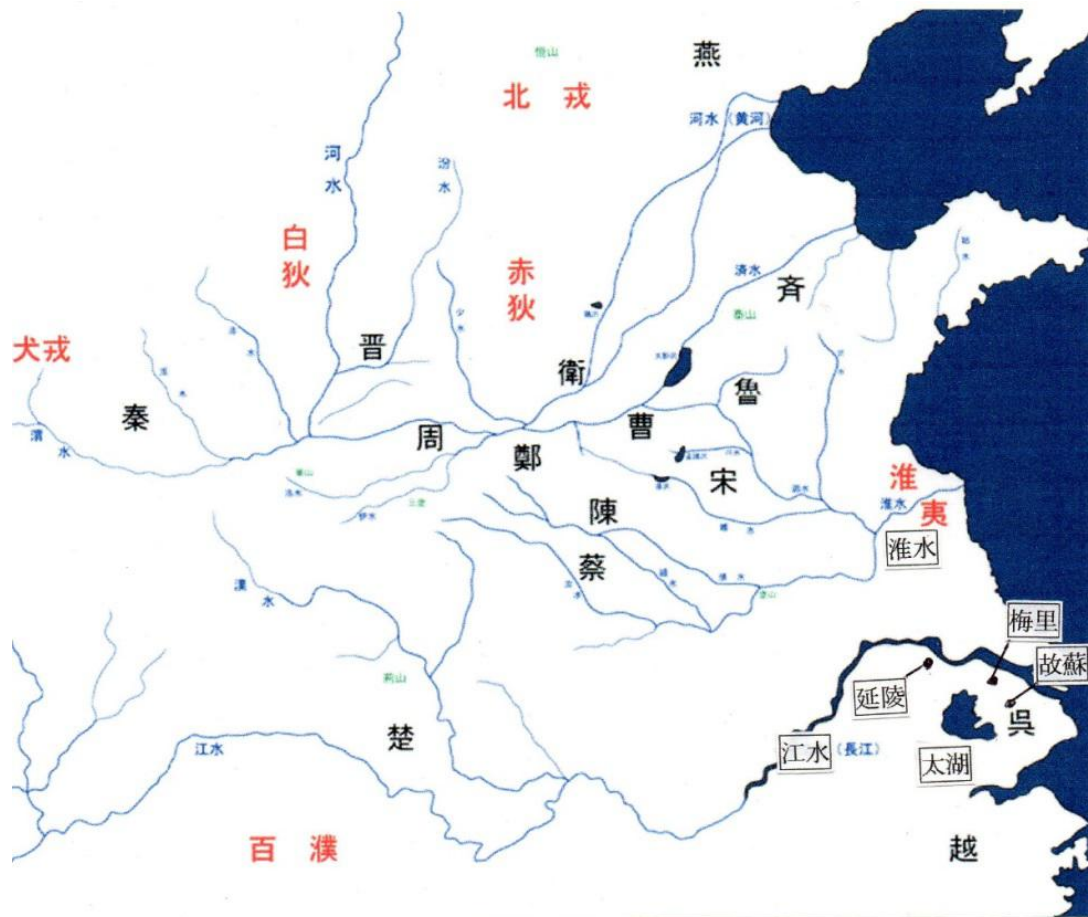
虞仲：太伯に子が無い為に太伯の死後、王位を継ぎます。

季歴：古公亶父の末子、古公亶父の死後、王位を継ぎます。

昌：季歴の子、後の文王、周の勢力を拡大させますが、商(殷)の臣下に甘んじ任じられて西伯と

なります。* 西伯とは時の王朝から西部の支配権を任せられる事を言います。
 武王: 文王の次子、伯邑考と言う兄がいますが早世したのか武王が継ぎます。
 周公旦: 武王の弟、兄・武王が周朝成立後早く亡くなり、遺児・成王が幼少であった為に召公奭と共に成王を補佐し、摂政として周朝の安定に尽力しますが、成王が成人すると政権を返し臣下の席に降ります。孔子が最も憧れ尊敬した人物です。
 呉國に關係する人物は多々居りますので、追々記す事と致します。

春秋時代の中国全図と呉國の位置關係を示します。



此の時代、現在の上海は略、海に有り江水の運ぶ土砂により形成されて行きました。

呉王・僚の時、楚の亡命公子・伍子胥(伍員)が現れます。

伍子胥と共に此の時代を彩るのは、兵法で名高い孫子(孫武)ですが、史記では「孫子呉起列伝」に記されています。

孫武と伍子胥に就いては、面白い話が多々ありますので、次回以降に御紹介したいと考えます。

つづく

神奈川県内にサバ神社が 12 社も！

平塚 征英

福井県には鯖街道なるものがあるそうですが、サバ神社が神奈川県内に 12 社もあるのをご存知でしょうか。

数年前にサバ神社の存在を知ったが、なかなか訪れるチャンスがなかった所、ガイド付ウォーク会主催の4回シリーズが7月に始まり、最初の2社を含めたウォーキングに参加できました。

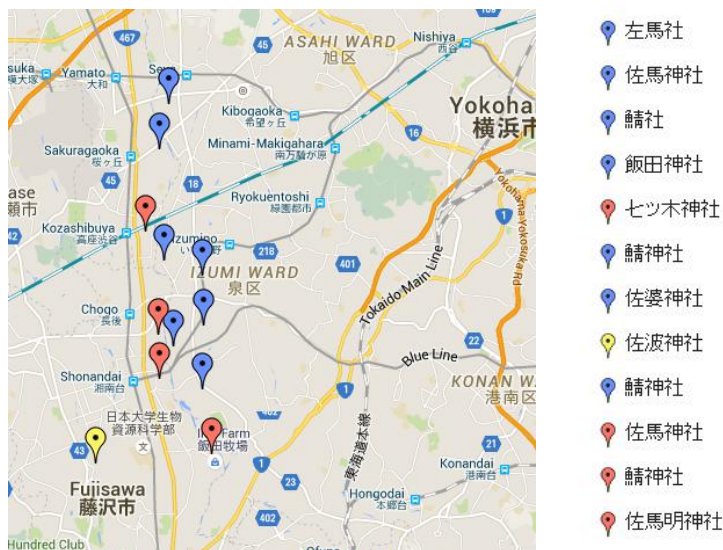
これを機会にサバ神社についてネットで調べて、多少は理解することが出来ました。

サバ神社は図に示すように、神奈川県中部の境川中流域、横浜市泉区・瀬谷区、大和市南部、藤沢市北部にかけて 12 社あるようだ。「サバ」と読む社名を持つ(あるいは過去に持っていた)神社で、12 社の内には、現在では神社と見なされない小さな祠が含まれているとのこと。

図の左方を縦に走るのが小田急江ノ島線で、上部の大和駅で左右に走る相鉄線と交差する。相鉄線は更に高座渋谷駅でも小田急線と交差する。小田急湘南台駅では、横浜市営地下鉄ブルーラインと交差する。図が不明瞭だが、小田急線にほぼ並行して境川が南下している。

サバ神社は、大和駅付近から湘南台駅南方までの、およそ東西3km・南北10kmの狭い範囲に分布している。殆どが境川(昔の武蔵野国と相模国の国境)と支流和泉川及び引地川の付近である。

所在地では、横浜市瀬谷区・泉区に6社、大和市に2社、藤沢市に4社である。



神社の名称は社により、鯖以外に左馬(佐馬)、佐婆、佐波とも表記され、地名にちなむ名に改名したもの(セツ木神社・飯田神社)もある。

出典によって12社の名称は同一ではなく、上図では下記の上段の数となるが、Wikipediaでは下段の数となっており、余り正確ではないが、少なくとも魚の鯖より「左馬」系統の名称が多いようだ。

鯖…4、佐馬…3、左馬…1、佐婆…1、佐波…1、地名(セツ木、飯田)…2、計…12社

鯖…2、左馬…6、佐婆…1、佐波…1、地名(セツ木、飯田)…2、計…12社

古来から7社のサバ神社に参拝し、息災を祈る「七さば巡り」「七さばまいり」なる風習があったことで知られる。一日でこの七左馬をお参りすることで疱瘡、麻疹(はしか)、百日咳などの悪病除けになるという。「サバ参り」あるいは「相模七左馬」とも言う。

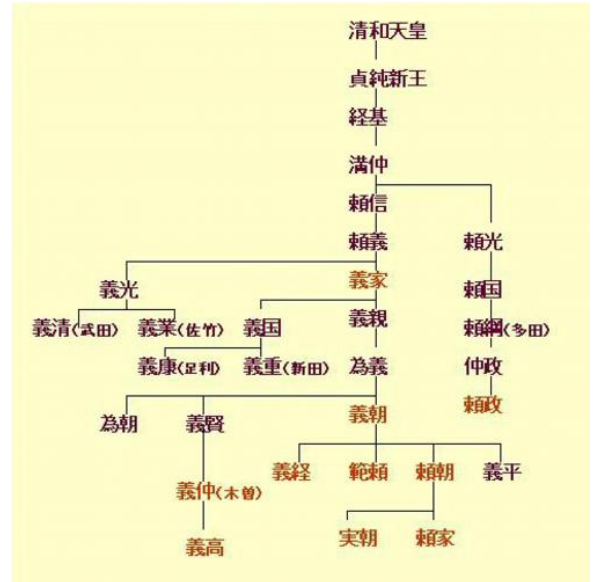
祭神は源義朝が9社で、源満仲が3社である。語源については、源義朝が左馬頭(サマノカミ、サバノカミ)だったためとも言うが、諸説あり詳細は不明とのこと。

源義朝(1123~1160)は、平安時代末期の河内源氏の武将で、源為義の長男。源頼朝・源義経らの父。

源義家の死後、河内源氏は内紛によって都での地位を凋落させていた。都から東国へ下向した義朝は、在地豪族を組織して勢力を伸ばし、再び都へ戻って下野守に任じられる。東国武士団を率いて保元の乱で戦功を挙げ、左馬頭に任じられて名を挙げるが、3年後の平治の乱で藤原信頼方に与して敗北し、都を落ち延びる道中尾張国で家人に裏切られ謀殺された。

河内源氏の主要基盤が東国となったのはこの義朝の代であり、高祖父の源頼義以来ゆかりのある鎌倉の亀ヶ谷に館を構え(亀谷殿)、特に相模国一帯に強い基盤を持った。

左馬頭はその位階以上に、武門にとっては武士の棟梁にも比される程の重要な官位であった。



源満仲(912~997)は、平安時代中期の武将で、清和源氏・六孫王経基の嫡男。多田源氏の祖。源氏の系図によると、源義朝から数えると6代前となる。

7月初めのウォーキングでは、横浜市瀬谷区橋戸の左馬社と大和市上和田の左馬神社の2社を訪れた。神社としては中~小規模であるが、いずれの境内にも神社には珍しい鐘楼があり、明治時代以前の神仏混淆の名残りであろう。

上和田の左馬神社は、神社名が鯖大明神(宝暦14年;1764)、佐馬大明神(文化13年;1816)、佐馬大明神(文政11年;1828)、佐馬明神社(天保12年;1841)と変遷し、現在は左馬神社となっている。興味深いのは、この社は「左馬」ではなく「佐馬」となっていること。



橋戸の左馬社



鐘楼



上和田の左馬神社

ネットで調べると、サバ神社には幾つかの謎があるようです。それに対する推測もあるようですので、興味のある方はネットで検索してみても如何でしょうか。

サバ神社の謎 とは

<謎の(1) なぜ源義朝を祀るのか>

源義朝は源頼朝の父にあたる人物で、保元・平治の乱で活躍した武将です。

しかし、歴史上ではそれほど注目を集めるような重要な人物とも思えません。では、なぜ後世の人々によって、源義朝を主神とする神社が創建され、そして祀られるようになったのでしょうか。それが不思議なことであり、謎なのです。

また、いつ頃だれによって源義朝が祀られるようになったのか。といったことも謎なのです。

<謎の(2) なぜ地域が限定されているのか>

サバ神社がある地域は、境川中流域に限られています。しかも集中しています。それはなぜなのでしょう。国内の他の地域には、このグループに属すると思われる神社や類似した神社は存在しないようです。

<謎の(3) なぜ神社の名称がいろいろ在るのか>

源義朝(または、源満仲)を祀っていることから、義朝が左馬頭という役職にあったことから左馬神社と言われるようになったとされています。では、なぜ音は同じでありながら、色々な名称(表記)があるのでしょうか。魚の鯖が使われるのはなぜでしょう。

<謎の(4) なぜ和泉川ぞいの3社のみ源満仲を祀るのか>

殆どのサバ神社は、源義朝を祀っているのですが、和泉川沿いの3社は源満仲を祀っています。それはなぜなのでしょう。

<謎の(5) なぜ七鯖参りは行われるようになったのか>

江戸中期～明治初期に、境川流域の村々では、疫病が流行すると境川流域に点在する7つのサバ神社をまわり厄除け、疫病払いをする民俗信仰がありました。それを「七鯖参り」といいました。まわる神社やまわる順番は、それぞれの村や地域によって決まっていたようです。一見、源義朝(または、源満仲)を祀っていることと無関係なようにも思えます。では、なぜ「七鯖参り」はおこなわれるようになったのでしょうか。

参考までに、四国巡礼の八十八札所の他に別格二十札所がありますが、別格第四番札所は「鯖大師」です。鯖大師の謂れは次のように言われています。

<鯖大師霊験記> 鯖大師だよりより転記

お大師さま四国霊場お開きの時、難所八坂八浜の真中、行基菩薩お手植の松の下で野宿される。

当所、土佐浜街道にて、お大師さま土佐よりの馬子に積荷の塩鯖のお接待を乞う。馬子、お接待をせず、罵り立ち去る。お大師さま「大阪や八坂さか中、鯖ひとつ大師にくれで馬のはら病」と詠まれると、馬にわかに倒れ病む。馬子、馬曳坂で思案にくれる。

馬子、先程の僧がお大師さまなることを知り俄悔、お大師さまに塩鯖一匹を献ず。お大師様馬子の懺悔をあわれみ、お加持水を作り、馬子お加持水を馬に飲ます。お大師さま「大師にくれで馬のはらやむ」と詠まれると、馬の病気たちどころに治る。馬子、馬の病気が治ったお礼をいい、己を俄悔し、お大師さまを礼拝する。

お大師さまは馬子を大砂の浜、法生島に連れて行き、塩鯖を海に投げお加持すると塩鯖は生き返って泳ぐ。馬子、この霊験に発心、お大師さまの教えを受け、この地に庵を作り、ひとを助け、鯖大師の霊験を今に伝える。



隠岐流人秘帳(その5)～ 蹴鞠 ～

松本良樹

都からの流人たちが、さびしいこの島に送られ、ただ一つの娯楽として、また都を偲ぶよりどころとして、大いに愛好していた蹴鞠とは、一体どのようなものでしょうか。

古いこの典雅なスポーツは、今では重要無形文化財に指定されている。そして、日本の誇る古代文化として、ぼつぼつではあるが、海外にも紹介されつつある。

蹴鞠がいつごろ我が国に入って来たのかははっきりしないが、中大兄皇子(後の天智天皇)が藤原鎌足と蹴鞠の技を競ったと『大日本史』にあるから、千三、四百年も前から我が国で流行していた事がわかる。天智天皇は、ずいぶんこの蹴鞠のファンだったらしく、たびたび都で蹴鞠大会を開いて、これを奨励した史実もある。

飛鳥時代から江戸時代末までの長い間、蹴鞠は上は天皇、皇族、公卿、殿上人から武士にいたるまで、階級の差別なく彼等の中で楽しく行われていた。

蹴鞠の全盛期は後鳥羽上皇の頃で、上皇ご自身も、その技が素晴らしくうまかった。もちろん隠岐島配流後も折にふれ、続けておられたようである。

当時は文武二道に対し、歌と鞠の二道があり、合わせて四道時代を形成したほど盛んだったが、明治維新になって文武制度の改革で一時途絶えていたものである。

こうした千数百年の伝統を持つこのゲームの起こりは、その昔——支那の黄帝によって制定されたものと言われ、鞠(ボール)は皇帝が討ち取った逆臣蚩尤(シュウ)の首を蹴り飛ばし、ころがして大悪人降伏、天下泰平の祈願に使ったのが初めだと伝えられている。日本でも五穀豊穡、天下泰平、など平和の象徴として、この典雅なゲームが愛好されてきた。

鞠場(グラウンド)の大きさは約75㎡(7間半平方)で、その内側約65㎡(4間半平方)の四隅には、松、桜、楓、柳などの樹を植える。そうして、四隅と中央の地下30cm位の土中に、空の2斗甕を埋めた。これは、此の上で蹴ると反響をよんで、鞠の音が良くなるからである。また臨時の鞠場では四隅に竹を立てて、式木に代える事も許されていた。

優雅なこの蹴鞠は、一定の作法に従って8人の仲間が『ほおー、ほおー』又は『ありゃー、ありゃー』などと掛け声をあげながら、一つの作法に従い、鞠を地に落とさないようにする。そして、足から足へ蹴り上げ、蹴り渡し、またこれを足に受けて蹴ることを連続するのである。

つまり相手チームのない味方だけの足のバレーボールなのである。蹴鞠の特色は、あらゆるスポーツが勝負を争うのに対し、これは一心同体、そこには少しの邪念も一片の敵愾心もなく無念無想の境地に入って長く蹴り合って楽しむという競技である。この勝ち負けなしのスポーツは、一見刺激がなくつまらぬように思われがちだが、蹴る人の姿勢や、蹴り上げられた鞠の高さ、鞠の回転などの変化が面白く、それはそれなりに妙味があるとの事だ。



このゲームを通じ、昔の人達は謙虚、互助、共楽の情操精神をも合わせ養っていたらしい。この勝負の無い事が、かえって殺伐だった当時の人達に受けたようにも思える。蹴鞠の優美さは、その掛け声と、鞠の音、蹴る人の態度にある。音と像とのリズムカルな麗しさは、見る人を必ず感動させずにおかないものである。

最近では外国人も、これを日本の古典蹴球と称して、高く評価しているといわれる。さて、ここまでは例によって近藤泰成さんの『隠岐流人秘帳』よりの転載です。

この蹴鞠にも名人と言われた人が沢山おりますが、なかでも『蹴聖』と呼ばれた**藤原成道**(1097～1162)が有名です。彼は権大納言藤原宗道の四男で、正二位大納言までつとめた平安後期の公卿です。

- ① 「台盤に乗って鞠を蹴ったが、音一つしなかった」とか
- ② 「侍の肩の上に乗って鞠を蹴ったが、当の侍は、それに気付かなかった」とか
- ③ 「成道が蹴る鞠は雲に届いた」とか
- ④ 「清水の舞台の欄干を、蹴鞠をしながら一往復した」などの伝説を残しています。

この藤原成道は今様にも優れており、後白河法皇と並ぶ達人としても知られています。西行法師が在俗時代に上司であったため、生涯にわたって親交が篤く、ともに和歌に親しんだ事でも知られています。

蹴鞠の二大流派の祖といわれる**難波頼輔**(1112～1186)は、平安後期から末期の藤原北家、大納言藤原忠教の四男で、蹴鞠の二大流派、**難波、飛鳥井両家**の祖として崇められています。公家の流派のうち難波流、御子左流(ミコヒダリ)は近世までに衰退しましたが、飛鳥井流だけは、その後まで受け継がれ飛鳥井家屋敷跡にあたる白峯神宮(京都飛鳥井町)の精大明神は、蹴鞠の守護神であり、現在ではサッカーを中心とした球技・スポーツの神とされています。毎年4月14日と7月7日には蹴鞠の奉納が行われています。

蹴鞠の鞠は革製で、中空です。鹿の滑革(ヌカワ)二枚をつなぎ合せ、その重なる部分を腰革、また『くくり』という。また取革といって別に紫革の細いのを刺し通す。

種類は白鞠、生地鞠、燻鞠、唐鞠があります。白鞠は鞠を白粉で塗ったもの。生地鞠は生地のままのもので白鞠に対する。燻鞠は燻革で製したもの。唐鞠は五色の革を縫い合わせて製し、中国から伝来した時の鞠のかたちであるという。

『今川大草紙』によれば、「鞠皮は、春二毛の大女鹿の中にも、皮の色白で、爪にて押せば、しわのよる皮を上品とする也」とあります。

いずれ、このシリーズで触れなければならない後鳥羽上皇、後醍醐天皇も、ここ隠岐島で蹴鞠を楽しんでいたことだと思います。

武家も蹴鞠に興じた方々が多く、源頼家、源実朝、足利義満、足利義政、織田信長、豊臣秀吉、今川氏真、島津忠恒など多くの人がいます。

明治天皇自身も蹴鞠をし、教えました。蹴鞠の作法を知る人が少なくなったのを憂い、『蹴鞠を保存せよ』との勅命と下賜金でもって、明治40年(1907年)5月7日に飛鳥井家の蹴鞠を伝える蹴球保存会が、梅溪道善(ウメニミチウ)を初代会長に発足させました。

つづく